【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 8 日（11 月 14 日）】出場選手コメント

◆男子 5000m　T11　決勝

・唐沢　剣也（群馬県社会福祉法人事業団）

来年の東京パラ内定をいただけて、嬉しい。暑い中のレースになると想定し、前半はリズムを大事に落ち着いて、後半は伴走者も変わり、切り替えて行くというプラン通りに走れた。表彰式でメダルをかけてもらって、少しずつ実感がわいてきた。実力的には 4 番だと思っているが、伴走の二人と協力してしっかり走れたと思う。

自分の良さは、積極的にガンガン押していく走り。でも、海外勢は強いので、もっと実力をつけたい。今回は暑いなかでこの結果を出せたのは自信になる。ただ、自分の自己ベストでは勝負にならないので、さらに上のタイムを目指し冬練習で力をつけて東京パラに向かいたい。

星野ガイド（後半）：世界とはまだ力の差はあるが、今日は実力の 120%くらい出したのではないかと思っている。タイムもセカンドベストで上出来。暑さについては、群馬は日本一暑いところであり、普段から気温も高く、風も強い中で練習している。東京パラは唐澤に向いていると思う。

茂木ガイド：勝負は星野さんに代わった後半だと思っていたので、前半は唐澤さんをいかにリラックスして 3000m まで走ってもらえるかを考えていた。いい位置でレースを進められ、力は出し切れたかなと思う。唐沢さんはまだまだ伸びる力があると思うので、ガイドのほうも一緒に力をつけられるように練習していきたい。

◆和田　伸也（長瀬産業）

中田　ガイド

伴走者が選手を引っ張ったという判定が出て失格に。

経緯は、ラスト 200m のコーナーに入ったところで、和田選手がロシア選手と接触した。その分、和田選手が遅れてしまったタイミングで、ガイドの私が順位を上げようと内側に詰めに行ってしまった。結果、ロープのテンションが高まり、「引っ張った」という判定になった。伴走者である私の判断ミス。半歩待てばよかった。私の失敗です。

和田さんは本当によく走った。全て私のミスです。

金メダルを狙える位置だったので、一歩抑えることができなかった。東京パラでは、そうならないように、また、そういう状況になったら、自分をちゃんとコントロールした

い。

和田選手
レースとしては完璧な展開で、金メダルを狙えるところまでいっていた。この暑い条件のなか、体もよく動き、反応もでき、来年の東京パラの本番を想定した戦いができた。次につなげていきたい。

◆ユニバーサルリレー　日本
澤田　優蘭：　1走を走ったが、自分の中では一番いいい走りができたかなと思う。日本チームとしては、世界で十分戦える力があると思う。今後、タッチワークや個々のスピードをあげていくことで東京パラに出場し、メダル獲得が期待できると思っています。

塩川ガイド：タッチワークは日本の武器になる。東京では今日の借りを返せるようにメダルを獲得したい。

井谷　俊介：　スタートもうまく出られたし、少し速度が鈍ったかと思ったが、ペースを上げていけて、ロシア選手もかわすことができた。後半も失速が少なく、3走に渡せたので手ごたえがよかったです。タッチワークは武器としてベースがしっかりできてきた感がある。さらに磨いていって精度を高め、この悔しさを東京で晴らしたい。メダルがほしい。

竹村　明結美：　タッチされたから走れていたが、3走から4走に渡すときにタッチができなかった。今後、がんばって練習したい。メンバーが変わって焦りはなかったが、Aチームの中で走るのは初めてで緊張と不安はあった。4走の選手以外は合宿の時に入れ替えがあり、誰かが体調が悪くて走れなかった時に入れ替えて練習をしました。あとは、３と４走で追加の合宿もやっていけたらと思います。もっと3走と4走のタッチワークをしっかりしていってメダル獲得をしたい。

生馬　知季：　タッチを受け取ることができず、申し訳ない。今後、頑張りたい。練習は前日距離を確かめながら数回トライしました。安定していたので、14mでかなり短くしました。息合わせの精度をもっと高めていって、東京パラリンピックで悔しさを晴らしたい。

（コメント協力：星野恭子）